

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

### \* クロノグラフ収蔵

これは、アーカイブを始めた当初のころ収蔵したものだが、記事にしていなかった。おそらくレプソルド子午儀室から収蔵したものだと思う。レプソルド子午儀の観測に用いられた時刻記録装置であろう。木箱に入った状態で見つけ、「クロノグラフ」と書かれたラベルが貼ってあった(写真1、2)。



写真1 クロノグラフの木箱



写真2 貼られているラベル

クロノグラフをインターネットで検索してみると、「クロノグラフ(Chronograph)とは、ストップウォッチ機能を備え、時計機能と同一動力源によってストップウォッチ機能をも動作させる懐中時計または腕時計をいう」とあり、1950年ころ天文台で使っていたクロノグラフは時計機能は持っていたがこれとは全く違った意味で用いられた器具と思われる。

箱の中は、2段になっており。下段にクロノグラフ本体が入っており、上段には回転テーブルが入っていた。写真3が木箱の扉を開いたところ、写真4が引き出した本体、写真5は棚板ごと引き出した回転テーブルの様子である、



写真3 扉を開いた様子



写真5 引き出した本体



写真6 棚板に載った回転盤

本体の上には紙に包まれた部品のようなものが入っていた（写真7）。



写真7の右下のハンドルは、時計のぜんまいを巻くハンドル  
本体の名盤が写真8である。



写真8 山下計器製作所の名盤

インターネットで検索すると、山本計器製造株式会社という似た名前の会社が存在する  
が圧力計・温度計の専門メーカーで関係はなさそうである。本体の上面が写真9である。



写真9 本体の上面

本体に、テープを送る回転盤を取り付けてみた様子が写真10である。



写真10 回転盤を取り付けてみた  
入力端子が2個（写真11）、電磁ペンが2個（写真12）ある。



写真11 入力端子1、2



写真12 電磁ペンが2本

端子 1、電磁ペン 1 はおそらくリーフラー時計からの時刻信号、端子 2、電磁ペン 2 は天体の子午線通過の時刻が打刻されると思われる。レプソルド子午儀室の床下には、この時刻が打刻されたテープが大量に残されている（写真 13）。



写真 13 残された観測の時刻テープ  
時刻テープの一例が写真 14、15 である。1950 年の年号が見える。



写真 14 1950 年 1 月 27 日の日付の見えるテープ

これらのテープを伸ばして、電磁ペンが書いた記録の例が写真 15 である。テープの裏には当時のメモ書きも残されている (写真 16)。この観測者はレプソルド子午儀で観測されていた辻 光之助さんと思われる。

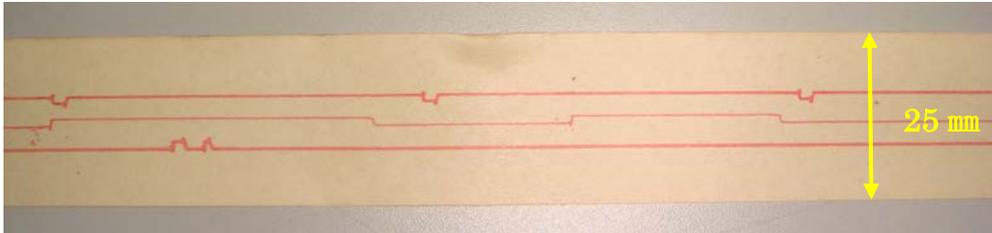


写真 15 観測データの一部

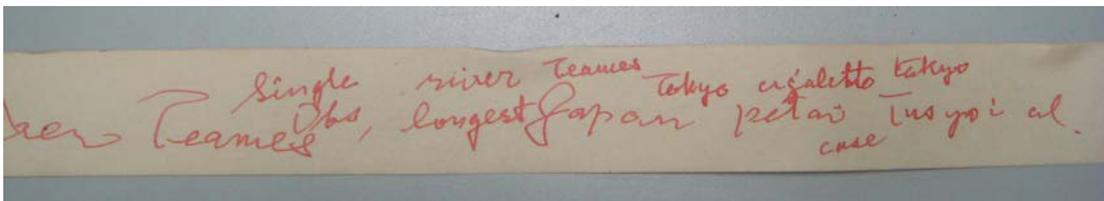


写真 16 1950 年ころの観測者辻光之助氏のメモ書き

ここで納得のいかないことが何点かある。写真 15 には 3 本の線が書かれている。ところがこのクロノグラフには電磁ペンは 2 本 (写真 12) しかない。この記録テープはこのクロノグラフで書かれたものではないと思われる。また、この記録テープの幅が 25 mm (写真 14) あるが、このクロノグラフのテープの溝は 13 mm (写真 17) である。

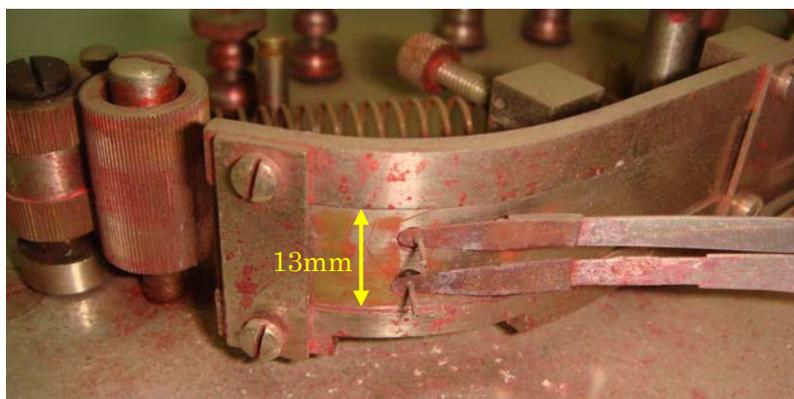


写真 17 記録テープが通る幅 13 mm

レプソルド子午儀室の階下は探検済みであるが、まだ謎があり、再度単探検してみたいと思っている。写真 18 のような木箱もある。まだこの箱の中は見えていない。

そしてほかにもクロノグラフがありそうな気がする。なにしろ、このクロノグラフの箱には No. 10 と書かれている。それでは 10 個はあったはずである。



写真17 この木箱の中にはまだ何か・・・ありそうな！

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)